

40歳のチャレンジ

6月22日、クルム伊達公子選手とビーナス・ウィリアムズ（米国）選手とによって行われた、テニスのウィンブルドン選手権女子シングルス2回戦は実に圧巻でした。

3時間に及ぶ激闘の末、伊達選手は7-6、3-6、6-8と逆転負けを喫しましたが、その内容は、非常に緊迫した、素晴らしいものでした。日本人はとにかくプレッシャーに弱いといわれますが、最後までしぶとくウィリアムズ選手に食らいついた勝利への執念と集中力は凄いと感じました。

私の予想では、年齢差やランキングの差から、ウィリアムズ選手が圧倒的に強いのでは思っておりましたが、惜敗という名に相応しい名勝負だったと思います。

伊達選手の、40歳という年齢を感じさせない積極的なプレー、巧みな試合運び、一つ一つのプレーに対して、観衆から惜しみなくおられる歓声と拍手が印象的でした。

伊達選手は、試合後のブログでこう書いています。

「今年、一番のいいプレーができました。そして楽しかったです。（略）私はベストパフォーマンスに近いプレーをしても勝たせてはもらえませんでした。でもやるべきことはやりきった結果です。納得できる結果です。

試合には負けたけど、世界中の人に記憶に残る試合にはなったのかな。」

また、彼女はこうもっています。

「1回戦、そして今日の試合、試合の中でも、どの瞬間も大きな大きなChallengeでした。そのChallengeに真っ正面から向き合い、戦いぬけた試合でした。」

このようにいい切れることは、素晴らしいことだと思います。

伊達選手は、WTAランキングでの最高位シングルス4位、ダブルス33位

という成績を残しており、アジア出身の女子テニス選手として、史上初めてシングルスランキングトップ10入りを果たしています。

伊達選手といえば、「ライジング・ショット」の名手として世界的にも知られた選手でした。

また、1996年のグラフ選手との2日間にわたる死闘は有名で、結果は、グラフ選手に負けて日本人初の4大大会決勝進出はなりませんでしたが、人々の記憶に残る試合でした。そして、今回のウィリアムズ選手との試合もまた、同じように、私たちの記憶に残ることでしょう。

伊達選手は、一旦は現役を引退しましたが、2008年に、12年ぶりの現役復帰を果たしています。以来、彼女は、現役時代を彷彿とさせるプレーを続けていますが、そのパワーと技術を維持するための努力は、並大抵のことではない筈です。そして、そこまでの努力を惜しまず、厳しい闘いに臨んでいるのは、彼女が40歳にしてなお、チャレンジャーとしての気持ちを失っていないからだと思います。

アラフォーの40歳、かつて「ライジングサン（日の出）」と呼ばれた伊達選手は、今も、輝いています。（塾頭 吉田 洋一）